

高等学校

教科【地歴】

単元【地理総合：地図や地理情報システムで捉える現代社会】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

作業的で具体的な体験を伴う学習によって、地理学習の基礎的・基本的な技能を身に付けるとともに、地理学習に対する意欲を高める。

ICT活用のポイント

現代世界の様々な地理情報について、地理情報システムを用いて、その情報をまとめる基礎的・基本的な技能を身に付けることが期待できる。

使用する
ICT機器

P C、タブレット等

使用するアプリ・
クラウドサービス等G Suite (Classroom)
MANDARA (主題図作成フリーソフト)クラウド
の活用☒教材の配布・回収等 ☐資料等の共有 ☒生徒の学習状況の把握 ☐その他 ()本時の
ねらい

【技】主題図作成ソフト用いて、様々な地理情報をまとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。

主な学習活動
(学習場面)

I C T の活用・留意点等

評価

本時の問い「途上地域の傾向性は、どのように表現することが効果的なのだろうか」

問い「先進地域との差が大きくなる項目は、何だろうか」

所得、乳児死亡率、貿易額、インターネット利用者数…

問い「どのようにすれば有効に伝えることができるだろうか」

導入

一斉

○主題図の有用
性を理解するG N I を例に、表で示したもの、グラフで
示したものの、主題図で示したものを提示する。

統計情報を地図にまとめるとわかりやすい。とても便利！

一斉

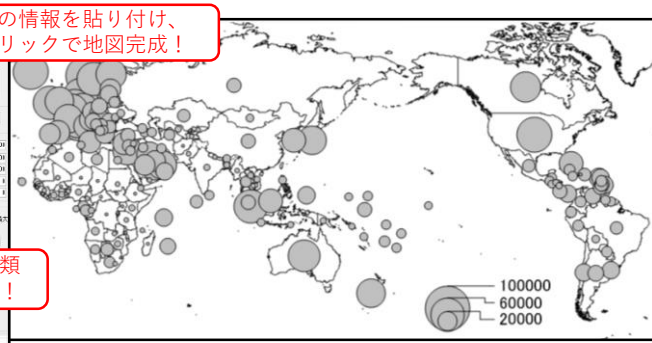
○演習の注意事
項を聞く「MANDARAの使用方法」「絶対値と相対値
の扱いの違い」を説明する。

個別

○演習「主題図
の作成」Step 1 先進地域との差が大きくなると考えられる項目を設定する。
Step 2 データブック・オブ・ザ・ワールド等から情報を収集する。
Step 3 **MANDARA (主題図作成ソフト)** で主題図を作成する。

展開

	A	B	C
43	ミャンマー	アジア	1,310
44	モルディブ	アジア	9,310
45	モンゴル	アジア	3,580
46	ヨルダン	アジア	4,210
47	ラオス	アジア	2,460
48	レバノン	アジア	7,690
49	韓国	アジア	30,600
50	中国	アジア	9,470
51	朝鮮民主主義人民	アジア	—
52	東ティモール	アジア	1,820
53	日本	アジア	41,340
54	アルジェリア	アフリカ	4,060
55	アンゴラ	アフリカ	3,370
56	ウガンダ	アフリカ	620
57	エジプト	アフリカ	2,800
58	エチオピア	アフリカ	790
59			20
60			50
61			80
62			100
63			200
64			300
65	ギニア	アフリカ	830
66	ギニアビサウ	アフリカ	750

ソフトにある
Excelシートに
統計を入力シートの情報を貼り付け、
ワンクリックで地図完成！主題図の種類
も選択可能！

協働

○発表

●●●(項目)は、途上
地域で低い傾向がある。作成した主題図を使い、
グループ内で発表する。

作成した主題図をClassroomに提出する。

指針3

クラウド

ここで評価

終末

本時の問い
「途上地域の傾向性を、どのように表現することが効果的なのだろうか」の解

個別

○振り返り

本時の問いに対する自分の考え
を見とることができるシートに
回答(自動集計結果を授業者が確認)(注)このような技能は、一度の授業で全てを養
おうとするのではなく、他の単元でレポートを作成
する際に主題図の作成を求めるなど、意図的に
技能を活用する機会を設けることが大切です。

※表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※評価の観点 【知】=知識・技能 【思】=思考・判断・表現 【態】=主体的に学習に取り組む態度